

ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 621

2024. 1

能登半島地震災害で犠牲になられた方々に哀悼の意を表します。

被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。



2024

03	2024 年年賀広告	
05	2023 実践報告会レポート	五十嵐一博・澤田大樹
08	地球温暖化について考える 第 41 回	渡辺政利
10	読者からのご案内「建築家・吉村順三の眼-アメリカと日本」	
11	のこぎり屋根に魅せられて	吉田敬子
13	アジアニュース No.13	T N

今月の表紙

2024 年が明けました。
能登半島地震災害で犠牲になられた方々に哀悼の意を表します。
被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎01/09 火 18:30 第 12 回支部幹事会 @新建事務所
- ◎01/26 金 18:30 第 13 回支部幹事会 @新建事務所
- ★2024/02/10 土 13:00-17:00 支部総会 板橋区立下板橋駅前集会所 2 階洋室
開場は 11:00 昼食を持参して一緒に食べながら交流しましょう！

全国

- ◎01/08 月 13:30 新建災害復興支援会議コアメンバー打つ合わせ @新建事務所
- ◎01/15 月 19:00 " 緊急 メンバー会議 @ZOOM

会員及び交流団体

- ◆02/14 水-17 土 東京の森展 @新宿パークタワービル 1 階ギャラリー・3 エコハウス研究会他
- ◆03/30 土 10:00 設計協同フォーラム 30 周年企画「暮らし 健やか 住まい講座」@グリーンホール 504



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

右記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.org.jp

1 月 1 日に能登半島で震度 7 にもなる地震が起き、津波も日本海側で広範囲に発生しました。犠牲になられた方々に心から哀悼の意を表します。被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。必死の救命、救急の活動、支援活動をされているみなさまに敬意を表します。

命が失われない、被害が拡大しないことを願っています。

新建築家技術者集団では、建築とまちづくりの専門家集団である全国組織として、被災地の活動と協働してその復興を支援することを目的に「新建災害復興支援会議」を設置しています。

防災・減災の活動を呼び掛ける役割も果たすと同時に、各地で頻発する自然災害とその度に問われる技術課題や復興政策の問題に対応しています。

【支援カンパのお願い】

支援活動は基本的にはボランティアで進めます。経済的負担が現地活動を難しくしている状況を補い、被災地支援ができるように「復興支援活動助成制度」を設けて執行しています。

ご協力をお願いします。

- ◆支援活動募金口座◆ みずほ銀行新宿新都心支店 普通 3914020
名義 新建築家技術者集団

新年おめでとうございます

新建築家技術者集団東京支部

2024 迎春

甲辰

密集市街地改善
空家等対策
防災まちづくり
コミュニティ活動支援
計画策定支援

平和で人権を大事にした社会を望み
住み続けられるまちづくりに取り組んでいます

株式会社 まちづくり研究所
代表取締役 野口 哲夫
黒崎 羊二'23年末を持って顧問退任
丸山 豊 東 研司 小金山 光男
川田 綾子 永井 崇 菊池 克久
齊藤 七重 飯田 紗季

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-13-6 第2伊藤ビル
Tel: 03-5423-3470
Fax: 03-5423-3479
Mail: machiken@ap.wakwak.com
H P: machiken-web.jimdo.com

新春 2024

松富 壽嗣
木下 龍郎
江國 智洋
佐藤 未来
佐伯 和彦
栗林 豊
木村美千代
高橋 毅
安達 一八
澤田 大樹
長谷川 陽
辻 彩香

木根川橋

一級建築士事務所 株式会社 象地域設計

〒124-0001 東京都葛飾区小管4-22-15 TEL:03(3601)6841 FAX:03(3601)6944
E-mail: zo-3@jade.dti.ne.jp

season's greetings 2024

Hi-Project Architects Office Ltd.

謹賀新年 2024

岡山の西の端っこに移住して10年超えました。
今年ホワイエから岡山暮らしを発信していきたいです。

馬越 まゆみ

慶春

本間 充一

株式会社 MS Architects

〒110-0015 東京都台東区東上野3-2-6 石田ビル4階
TEL: 03-5846-8155 Email: info@hom-inc.com

謹賀新年

平和憲法を
世界に

武力でなく
対話を

高田 桂子

ことしもよろしくおねがいします

2024.1.1



いろんな事に取り組んでいます。

- *まちづくり専門家登録 東京都 防災・建築まちづくりセンター
- *NPO コーポラティブハウス全国推進協議会 理事
- *NPO リ・らいふ研究会 理事
- *パークタウン東綾瀬自治会 事務局長
- *東京23区公団住宅自治会協議会 幹事
- *全国公団住宅自治会協議会 幹事
- *綾瀬まちづくり協議会 会員
- *葛飾区マンション管理適正化推進計画策定委員

象地域設計
江国 智洋

令和六年

謹賀新年

新建活動を通じてより良い社会に！
本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

お届けするのは健康です！ じねんりゆう 自然流健康の家

有限会社 槐建築設計事務所 柳澤 泰博

迎春
2024

設計協同フォーラム 30周年
新建会員の設計に携わるメンバーが
技術を高めあいながら仕事を継続し
ていく NPO 法人を設立して 30年
集まっているからできたことがたくさんあります。
さらに磨きをかけた年にしたいです。

3/30 30周年プレ企画「住まい展」

7/27 マンションフェア&30周年祝賀会

NPO 法人 設計協同フォーラム



2024
謹賀新年

片柳順平

2024
謹賀新年

NPO (特定非営利活動法人)
都市住宅とまちづくり研究会



2024 あけましておめでとうございます
アジアニュースのご愛読
ありがとうございます T.N



2024 総会に出席しましょう !!

2月10日(土) 13時~17時

板橋区立下板橋駅前集会所 2階 洋室

板橋区板橋 2-3-1 (東武東上線「下板橋」徒歩2分)

★15時30分からは懇親会もあります。

総会議案は1/26 第13回幹事会后にメールで配信します。

ご予定
ください

新年おめでとうございます

新建築家技術者集団東京支部

2024
謹賀新年

岡田昭人

住みなれたまちでの暮らしが、穏やかに続いていくことを願っています。

石原重治



Arc
Life

一級建築士事務所アーク・ライフ
東京都町田市小山田桜台 1-2-5-1
042-794-8180 email@arclife.org

迎春
2024

wanna talk together
学ぼう! 語ろう! 行動しよう!!
歳を重ねたから出せる魅力がある

能登半島地震の被災地支援と共に、身近なところで「防災力」を高める活動に力をいれたいです。

住まいとまちづくりコープ

千代崎一夫/山下千佳

〒174-0072 板橋区南常盤台 1-38-11-1F

TEL 03-5986-1630 FAX 03-5986-1629



謹賀新年

SOKEN

ARCHITECTURAL RESOURCE GROUP

五十嵐 一博

一級建築士事務所 株式会社 綜建築研究所

東京都葛飾区堀切2-26-12 ビラビアンカ10-1F 03-5875-6180

2024

本年もよろしくお祈いします。

皆様の活動をホワイエまで

お寄せください!

松木 康高

防災学術連携体(62学協会のネットワーク)緊急報告会 2024年1月19日(金)17時30分から19時

■プログラム 令和6年(2024年)能登半島地震の概要(30分)

防災学術連携体幹事 東京大学名誉教授 平田 直

地殻変動データ等からみた令和6年能登半島地震と発生メカニズム(30分)

京都大学 防災研究所地震災害研究センター教授 西村卓也

司会 防災学術連携体 代表幹事 米田雅子

閉会の言葉 防災学術連携体 東京工業大学名誉教授 和田 章

■開催方法 オンライン、参加費無料 / Youtube(一般公開、申込不要)

※Youtubeの接続先は、1月16日(火)に防災学術連携体のWebsite(<https://janet-dr.com/>)に掲載。

■情報共有:防災学術連携体 能登半島地震特設サイト

https://janet-dr.com/050_saigaiji/2024/050_240101_notohantou.html

<主催・お問合せ先>一般社団法人 防災学術連携体 janet.disaster.reduction@gmail.com

電話 03-3830-0188 ファクス 03-5876-8463

2023年新建東京支部実践報告会レポート

12月9日（土）10時～17時 としまち研で開催しました。7人が報告をしました。

午前中に報告をされた3名の方の内容について、簡単ですがまとめました。澤田大樹

住まい手、使い手の立場にたち、それぞれ仕事や活動をしています。今年度の支部実践報告会は、それぞれの仕事と活動を共有し合い、掘り下げ、「専門家としての役割」、「社会や地域の課題」、「これからの職能」について共通項を見出すことを目的とし、企画しました。

1. 築46年の実家を、DIYを併用しリノベーション /五十嵐一博さん

自分が生まれ育った実家を、パートナーや3人の娘さん含めた5人の住まいとして設計した自身の取り組みについて、報告いただきました。

費用を抑えたいという思いから、バルコニーの防水工事などは自身でおこなったり、余った羽柄材を有効活用し、家具を製作したりすることで、施工者の視点から工事を見つめる機会を通じ、効率よく、且つコスト面に関してもより良いすすめかたを模索されていました。



建物を使い続ける選択をし、自分の知見を身近な生活に活かしていく経験から、私たち専門家も、もっと住民と近い関係で、住まいのちょっとした相談にも応えてられるよう活動していくことの大切さを学びました。

2. 事務所30年の歩みとこれからの地域サポート /千代崎一夫さん



マンション管理士として、現在の活動に至るまでの自身の生い立ちを報告されました。五十嵐さんの報告と重なる部分がありますが、「業務なのか、社会活動なのか区別が曖昧だが、広い曖昧なカテゴリーが自身の守備範囲」という発言に、私たち専門家の職能確立と、地域に還元していくためのヒントが隠されているように感じました。

3. 神宮外苑再開発問題の支部の取り組み /柳澤泰博さん

新建東京支部を中心にこの間活動してきた、神宮外苑再開発問題への取り組みの集大成として報告いただきました。この件に対する私たち新建の主張の主軸は、「使い続けることの重要性」です。一方、球場側の意見は、バリアフリー化が困難なことやバックヤードの不足などの理由から、再開発への参加以外ないというものでした。

詳細はここには書ききれないので、ぜひ「見解と提案」を再読していただきたいのですが、私たち専門家の職能は、こういっ



た機会にこそ真価が発揮されるべきだと考えます。御三方の報告に共通する、「私たちの職能の発揮の仕方」を、今後も議論し続けていきたいと感じた報告会でした。

午後の部 4名の発表をまとめましたので、記載いたします。 五十嵐一博

4. 主体性を育てること-専門家の役割のひとつとして- /澤田大樹さん

象地域設計が設立時から時代背景と共にどのようなメンバーがどのような考え方で設計やまちづくりを進めてきたかをご紹介いただきました。地域の人たちに役立つ技術者になりたい、住まいて、使い手の立場に立つ専門家としての職能を確立したいという象地域設計の理念に触れ、私も設計者としての立場や考え方を再認識させられました。また、澤田さんが防災イベントを企画し葛飾区役所に提案、採択されて仕事に繋がった事例もご紹介いただきました。地域のための活動を実際の仕事に発展させていく行動力は見習いたいと思います。創成期のメンバーの若かりし頃の写真も登場し、参加者のみなさまで懐かしく談笑しました。



5. 多様な主体の連携による居場所づくりの実例 /岡田昭人さん

愛知県にある築50年近い団地再生についてご紹介いただきました。空室も目立つようになり、1階の大型店舗も撤退。岡田さんや新建愛知県支部のメンバーが主体となり研究会を立ち上げ、住まいを再生するためのコミュニティ形成を実現するための検討を開始します。住まいだけではなく空き店舗の活用、サービス付き高齢者住宅の設置、コミュニティ形成の場所、包括ケアシステムの構築など多岐に及ぶ活用を提案し、実現に向けて動いていきます。



NPO法人や病院、自治会、行政など様々な人たちの繋がり、関わりにより、子どもから高齢者、障がいをもつ人たちの居場所が誕生し、地域のにぎわいの場として大変有意義な空間となっていました。ぜひ一度、見学に行きたいと思います。

6. 高齢者と若年生認知症の入居者が暮らすグループホーム /村上久美子さん

千葉県の認知症（高齢者と若年生）に対応する2つのグループホームについて、設計者としての関わりをご紹介いただきました。行政の補助金を活用するために厳しいスケジュールに対応しつつ土地探しや建物の配置検討を並行して行うなど、設計者が事業者に寄り添いながら実現に向けて取り組まれました。開発許可や様々な制約に加え、ウッドショックによる資材の高騰、半導体不足による機器の調達困難など、社会的な建築を取り巻く情勢も浮き彫



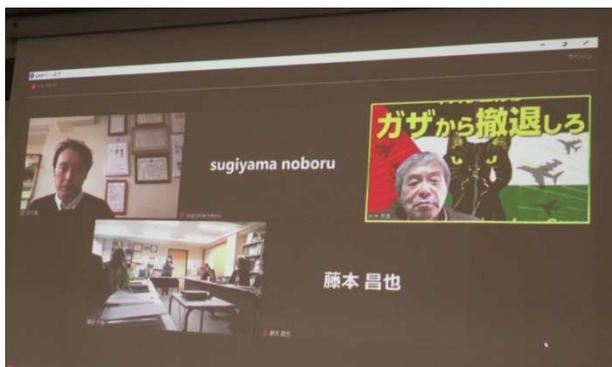
りになります。様々な困難を乗り越えて完成した建物は、利用者の方々の日々の暮らしを暖かく包み込むような木造の空間でした。都内から近いこともあり、是非一度見学ツアーなどを企画して伺いたいと思います。

7. 神田コーポラティブハウスよもやま話 / 杉山昇さん

都市住宅とまちづくり研究会（以下、としまち研）の取り組みの軸である「地域コミュニティ再生型コーポラティブハウス」についてご紹介いただきました。としまち研では住み続けたい、商売を続けたいという地権者の希望を反映した共同建て替えを、人と人、地域とのつながりをつくるコーポラティブ方式による住まいづくりで実現を目指しています。神田東松下町の実例では長年の活動でコーポラティブハウスが3棟完成し、夜間人口は2倍強の増加。若い世代・子どもが増加することで様々な行事も復活し、ほぼ全世帯が町会に加入していただけるなど、地域活動が活発になっています。近年は小学校跡地に再開発でマンショ



ンや区営住宅が完成し、既存住民が4倍になりました。新しい住民にも町会活動をアピールし、ラジオ体操・納涼祭・もちつき大会などのお誘いにより多くの人たちに町会へ加入して頂き、ますます活発な交流が生まれているようです。住まいをつくって終わりではなく、その先にある人と人とのつながり、みんなで集まれる居場所づくりなど、としまち研の様々な活動に触れることができました。



オンライン参加もしていただきました。



澤田さんから懐かしい象地域設計の写真が披露されました。



最後は、乾杯 !!

お互いの仕事を知り、語り、学びました。小人数でしたが、笑顔あふれる実践報告会になりました。交流会ももちろん盛り上がり、話がつきませんでした。山下千佳

2023 年は観測史上最高温の年

昨年 1 年間、日本の気温が非常に高く推移したとの実感が個人的にも強い印象として残りました。これを客観的に裏付けるように気象庁は、12 月 22 日、2023 年の天候まとめ（速報値）を発表しました。東京新聞はその内容について「年平均気温が 11 月末時点で平均値（20 年までの 30 年平均）を 1.34℃上回り、1898 年の統計開始以降で最も高くなる見通しを示した。地点別では、全国 153 のうち 111 が今月 20 日時点で過去最高を更新している」（2023 年 12 月 23 日夕刊）と書いています。要点だけを纏めた比較的短い記事で難しいのですが、その内容について私の理解も加えながら拾ってみます。

日本付近では偏西風が平年より北寄りを流れて暖かい空気に覆われやすくなっており、日本の南の高気圧の勢力が強かった。そのため、春、夏、秋それぞれが最高平均気温を記録し、観測史上初めて 3 季節連続の記録更新。これまでの平均気温に対するプラス年最高記録は 2020 年のプラス 0.65℃であったものが、11 月末時点ながらプラス 1.34℃と圧倒的に高温。地方別では 12 月 20 日時点で、北海道、東北、関東甲信、北陸、東海、近畿、中国、九州北部でそれぞれ平年を 1.0～1.9℃上回り 1946 年統計開始以来最も高温。この地域名に入っていないのは九州の南地域や沖縄など南西諸島が入っていないだけなので、言わば全国的な傾向であった。これを地点別で見ると、根室市と仙台で 2.2℃、水戸市で 2.0℃平年気温を上回っているという。

日本近海の海面水温も 11 月末時点で平年より 1.07℃高く、これは 1908 年の統計開始以来最高だった 2021 年のプラス 0.74℃を上回る見込み。台風の発生数は 17 個（平年 25.1 個）と 1951 年の統計開始以降 3 番目に少なく、特に 9 月以降は 5 個で過去最少。従って日本に上陸・接近する台風も少なかった。これは台風が発生しやすいフィリピン付近の気圧が秋に高くなっていたためである。

北日本では天候の不安定が心配されていましたが、こうした台風の襲来の少なさもあって年間降水量は北日本・日本海側では多かったが、北・東日本の太平洋側と沖縄・奄美では、秋の降水量が平年の 48%で過去最少に留まった。

日本だけでなく世界の今年の気象は大変な“異常気象”でした。欧州連合（EU）の気候情

報機関「コペルニクス気候変動サービス」が、昨年 1 年間の気温が「過去 12 万 5000 年で最高となるのは確実」と 11 月に発表していたという記事もあります。これは地球温暖化に伴っていると断言していいのではないかと思います。こうした状況の固定化が心配されます。

世界の気候と生活

地球温暖化による気候変化とその悪影響が、地球上でも特に低開発の地域・国々に顕著に表れて来ていることについてこれまでも触れてきました。最近もこうした傾向の報道が続いています。少ない例ですが取り上げてみたいと思います。

「1.5 度目標 生き残る限界値」

国連気候変動枠組み条約第 28 回締約国会議（COP28）が、10 月 30 日から 11 月 13 日までアラブ首長国連邦（UAE）の首都ドバイで開催されました。この会議は当初 11 月 12 日までの 14 日間で計画されていたが、参加国の意見調整がまとまらず 1 日延期されたものです。この会議の歴史的な重要性は言うまでもないことですが、「しんぶん赤旗」は期間中に特集記事「COP28 in ドバイ」を多くの角度から連日のように報じました。

その中の 12 月 15 日 太平洋島嶼国・フィジー出身、参加者ドルー・スラッターさんへのインタビュー記事

太平洋地域では平均気温が上がる毎にサイクロンが激しくなり、増加している。海面上昇で高潮の氾濫は以前 20 年だったものが、500 年に広がって沿岸部は移住を迫られている。海水に浸されて作物は育たず、生業の漁業は海洋温度の上昇で生態系が乱され、食料と生計手段を奪われている。土地の崩壊によって、土地と強く繋がった言語、遺跡、宗教など文化やアイデンティティが破壊される。

COP28 で公表された資金は、返済金利の高いローン形態で公的補助金ではないので、脆弱な国が気候資金を調達しようとすれば負債を抱えることになって、役に立たない。太平洋諸国の人々が手に取れるものでなければ意味が無い。資金も重要だが、全ての化石燃料の段階的廃止を求めます。パリ協定の 1.5 度目標は私たちが生き残るための限界値です。

「干ばつに逃れた人 洪水の危険直面」

(しんぶん赤旗 12月25日)

イタリア・ボローニャ大学などの国際研究グループによる1992年から2013年までアフリカ50カ国での調査によると、干ばつから逃れた人々の多くが農業の再開を目指して移り住む場所は川の近くで、調査期間中に17カ国が干ばつを経験しその年に川の近くに移住した人が最大65%増加したところがあった。

ところが「アフリカ東部のソマリアでは、3年間に干ばつなどの影響で380万人が移住し、その多くが川の近くに避難しましたが、豪雨と鉄砲水で50万人以上がさらに避難した」といいます。米地球物理学会が「アフリカで干ばつから逃れて移住した人々の多くが洪水に直面している」と指摘。「気候変動で、今後、干ばつと洪水の両方がより大きな問題になると指摘」

「天空の湖! 浮島の暮らしが危機に」 NHK12月26日22:00から「地球イチバン」

この番組はNHKが以前取材した場所を10年後に再訪してその変化を報道するというもので、コンゴのエレガントな紳士達「サプール」(収入の大きな割合をおしゃれな服装に費やす男性達の物語)と、ウガンダ・ケニア・タンザニア3国にまたがるビクトリア湖の内、北側のウガンダ周辺居住者の変化の2話で構成されていました。その内の、後者について。

取材対象の居住者達は、海拔3800mを超えるビクトリア湖の湖上に周辺の土地で刈り取った芦のような草(名前を記録しなかった)で巨大な浮き島を作り、その上に家を作って居住していて、陸で食物を作り湖からは魚などを得て長く伝統的に暮らしてきた。ところが、地球温暖化の影響で乾燥は進み湖の水位は大きく下がって、周辺は以前湖の底であった地面が広がるばかり。

(調べてみると、降雨量が減る気候乾燥のみが水位低下の原因とは言えず、湖水は大きく水力発電などにも使われている)その土地では乾燥して食物はとれず、湖からの漁獲も大きく減り浮島を作る草の収穫も思うように行かなくなる。生活は追い込まれるばかり。従来の生活形態をのぞむ住民達も湖のみに依拠した生活はのぞめず、新しく職業訓練などを受けて都市に出て生活を成り立たせ、浮島での生活からも離れざるを得なくなる、というお話。ここでも気候変動が生活の変化を強制している。

COP28 が開催

COPとは「Conference Of Parties」の頭文字

を取った短縮語で一般的には国際会議を指すようです。気候変動関連分野では「国連気候変動枠組み条約締約国会議」と日本では訳されています。1992年国連で採択され、1994年から発行した国連気候変動枠組み条約に基づいて各国の対策と進捗を毎年確認し、気候変動に関する問題や取り組みについて議論する国際会議となっており、COP28はその28回目とすることになります。

2015年11月に起草され16年11月に発行した「パリ協定」では、各国が温室効果ガス削減目標を提出し、定期的に実際の排出量を報告することになっており、5年に一度世界全体で進捗評価を行い次の目標強化につなげていくというシステムを取っています。これを「ストックテイク」といいCOP28で行われたのが初めてでした。

しかし、結果的にその評価は非常に厳しいもので、世界各国の削減目標が現在のままでは、それを全て達成できたとしても気温は今世紀末までに3℃近く上昇する恐れがあると報告されました。明らかになったことは、温室効果ガス量は減るところか増え続けていることでした。(世界気象機関・WMOが今年発表した2022年の温室効果ガス排出量は、観測史上最高を記録。石炭や石油・ガスなど化石燃料由来のCO₂排出量は23年に過去最高となる見込みとの報道もある)

これに対して気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2030年には世界全体の温室効果ガスを43%(2019年度比)削減、2035年には60%、2050年には実質ゼロにする必要があることが明らかにされました。

COP28 で合意された対策

今回のCOP28で合意された内容は、大きく分けて二つとされています。一つ目は、2030年までに世界の再生可能エネルギーを現在の3倍まで急増させる。そしてエネルギー効率を2倍に引き上げること。二つ目は、化石燃料から脱却する行動をこの10年で加速させる、というものです。

一つ目についてはほとんど問題なくCOP28では早々に承認されましたが、二つ目については難航しました。議長から当初「化石燃料の段階的廃止」が提案されましたが、「化石燃料の廃止」をめぐる産油国から猛烈な反対が上がりました。産油国からの提案は「消費と生産を減減」として化石燃料の廃止目標がなくなるもので、廃止からは大きく後退するものでした。ところがこの提案をめぐる欧米各国や海面上昇で直接存続の危機被害を受ける島嶼国からさらに猛烈な反対意見が提出されました。会議は今後の目標をめぐる大議論となり、会期が一日延長され

ることとなったのです。結論では上に掲げたような「化石燃料から脱却する行動をこの10年で加速させる」と言うような、多少折衷的ではあるが化石燃料廃止に向けた動きの強化ニュアンスを入れたものとなったのです。

今回の会議では、温暖化ガスの急速で大幅な削減へ各国の合意が諮れるかが大きな焦点でしたが、「『脱化石燃料』の流れはより明確になった」（東京新聞12月18日社説）との評価が一般的だったのではないかと思います。

COP28 での日本

COP28 で岸田首相は「排出削減対策の講じられていない新規火力発電の建設終了。世界の再生可能エネルギー3倍化には賛成」と発言しました。しかし、現在稼働中の石炭火力発電はそのま

ま存続させる計画で、「2030年再エネ3倍」の方針についても、日本自らはこうした計画を持たず他国の動きを援助するなど伊藤環境大臣が表明して、大いなる齟齬を買いました。こうした消極的な姿勢に、今回だけで二つ目の「化石賞」（環境NGO「CAN インターナショナル」）が日本に与えられたのは実に不愉快な話です。

日本では家庭での世帯当たりCO₂排出量は、電気使用に基づく火力発電所からの排出が66.4%を占めると言われ、火力発電の早急な廃止が切実な課題です。

合意文書には火力発電の代替として、原子力発電や、日本が主張するアンモニア混焼火力発電やCCS（CO₂の回収・貯留）なども書き込まれたようで、課題を残したと言えます。（つづく）

読者からのご案内



建築家・吉村順三の眼

アメリカと日本



231225 地下鉄東西線東陽町駅近くにある竹中工務店へ行き、ギャラリーエークワッドで、吉村順三展を観てきました。

戦前・戦後を通じてアントニン・レーモンドと交流のあった同氏の跡をたどっています。

平日のみ開催ですが、3月までやっていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか？

(株)まちづくり研究所 野口哲夫

2023年12月22日（金） - 2024年3月28日（木）

開館時間：10:00 - 18:00（土曜、最終日は17:00まで）

休館日：日曜・祝日 入場無料

GALLY A⁴（ギャラリーエークワッド）

鋸屋根に魅せられて

埼玉県入間市② 写真家 吉田敬子

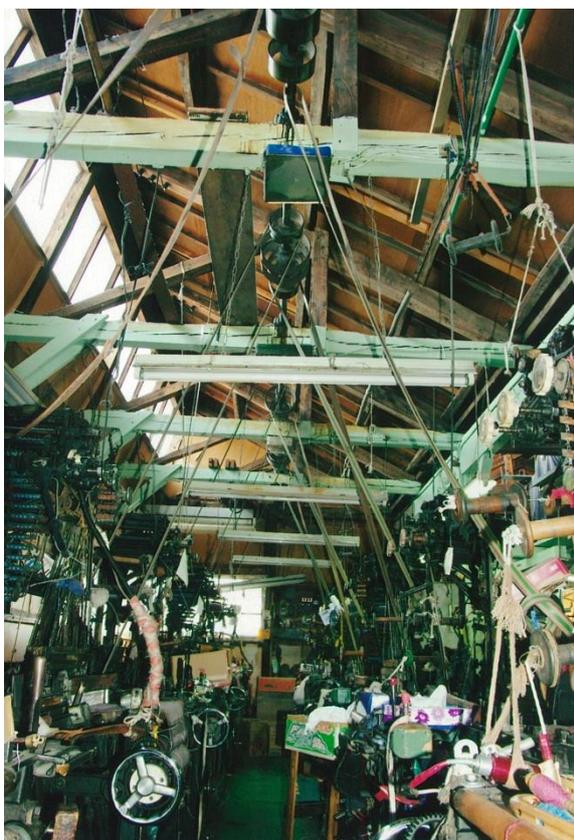
「入間市文化創造アトリエ・アミーゴ」で、2023年11月11日「糸ものがたり・受け取りつなぐ地域の記憶」が開催され、訪ねてきました。ここは埼玉県繊維工業試験場として、大正・昭和・平成の時代を経て1998年（平成10）に閉鎖しました。その後2001年（平成13）に再生された施設です。「4連木造鋸屋根」は赤い屋根のホール棟に再生され、お洒落に佇み出迎えてくれました。ホール棟での基調講演後、10年振りの再会をしました。入間市といえば「細芳織物工場」です。目と目が会うと「吉田さんですよ？」「細芳さんですか！」と夢のような再会でした。さらに驚いたことは細芳織物さんと、アミーゴの館長・水村さんは友人でした。嬉しい出会いと縁を頂きました。では、細芳織物さんを紹介します。2013年4月、私は初めて入間市を訪ねました。工場の場所は分かりにくく、住宅街から細く曲がりくねった道に入るといきなり目の前に現れました。5連木造鋸屋根は、堂々と出迎えてくれました。ガシャンガシャンと機織りの音がします。訪ねると社長の細田さんが笑顔で「どうぞ遠慮しないで」と、気さくに工場内部を見せてくれました。一歩足を踏み入れると、なんと織機はすべてベルト織機です。しかもトヨタ自動車の元祖・豊田佐吉が大正時代に考案した、Y型織機が16台もあり元気に稼働していました。この日は工場が忙しく取材する時間もなく、私は鋸屋根内部とY型織機を撮影するのが精一杯でした。

「細芳織物工場」5連鋸屋根：入間市 2013年4月撮影



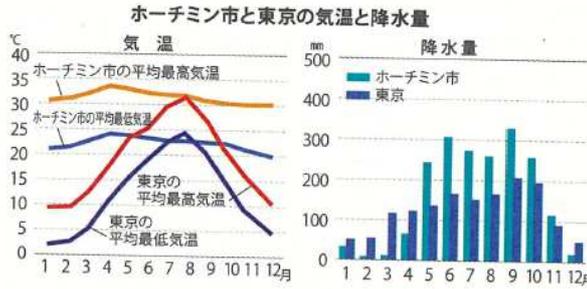
工場の歴史などの取材は後日伺いました。かつて入間市は繊維の街でした。石川組製糸所を中心に縫製、織物、染色工場など関連工場が多くありました。現在ある織物工場は飯能に3件、入間に1件で、その1件が細芳織物工場です。創業は明治40年代後半、祖父の細田政治が手織機による工場が始まりです。1944年(昭和19)父の細田芳太郎が独立し、工場を建て創業。1957年(昭和32)設立。3代目、細田和男さんが後を継ぎ現在に至る。当初は和服用の着尺を織っていましたが、昭和35年頃から着尺の需要が少なくなり、マフラーの製造を始め、昭和50年頃には着尺の製造は中止しました。Y型織機は、ゆったりした回転で味わいのある独特の風合いを持つ織物を作り出すことができます。その魅力に引かれ国内外のデザイナーから注文がきます。ただY型織機の部品は無いので壊れると苦労しますよ。と苦笑いでした。先代が残した柄見本帳を見せてくれました。大正8年と記された緋の見本帳を見ながら細田さんは言いました。「当時の技術は凄いですよ。図柄も綺麗で真似はできても難しいです。先代の技術を活かし、恥ずかしくないものを残したいですね。」あれから10年後の再会です。「鋸屋根も何も変わっていませんよ。変わったのは年をとっただけ。」と細田さんは微笑みました。

下記写真説明：上左より 大正8年柄見本帳～工場内部とY型織機 2013年4月撮影



ホーチミン市

ハノイ市が東京のような政治の中心だとしたら、ホーチミン市は大阪のような経済の中心として位置付けられます。したがって、経済発展の原動力となっています。



アジアニュースNo.13 (ベトナム中心) TN

す。ホーチミン市は、旧名がサイゴン市でした。

南北のベトナム戦争があったとき、北ベトナム「ベトナム民主共和国(南ベトナム解放民族戦線)」が、南ベトナム「ベトナム共和国」を最後に開放したのがホーチミン市でした。このベトナム戦争時に沢田教一氏(1970年10月28日カンボジアにて没。34歳)が撮影した映像

がホーチミン市戦争証跡博物館(1975年9月4日開館)に飾られており、世界的に有名な写真となっています。

写真

(天気図：気温、地球の歩き方より) ↑ 図



◇2050年までを視野に入れた2021~2030年の国家マスタープランに関する決議第15期第2回臨時国会

マスタープランでは、2021~2030年までの年平均国内総生産(GDP)成長率は+7.0%、2030年における国民1人当たりのGDPは7500USD(約99万円)とする。同期間に、ハノイ市とホーチミン市を中心と

↓ホーチミン市周辺図



する北と南の2つの経済原動力の開発を推進し、中でも南北経済回廊、ラオカイ~ハノイ~ハイフォン ~クアンニン経済回廊、モックバイ~ホーチミン~ビエンホア~ブンタウ経済回廊の開発に焦点を当てる。都市化率は50%とし、デジタルインフラの整備に注力してデジタルトランスフォーメーション(DX)の基盤を構築し、デジタル政府、デジタル経済、デジタル社会を発展させ、GDPに占めるデジタル経済の割合を30%とする。(20230110 VIETJO 記事による)

筆者は、ベトナムのハノイ市を中心に JICA の関係で各都市を訪問していますが、残念ながらホーチミン市には行けてなかったのですが、平成29年(2017年)にゴールデンウィークを利用して訪問しました。

ホーチミン市は常夏と聞いていたのですが、熱帯気候で、とにかく暑かったです。そんなことで、あまりあちこちに行けなかったのですが、囲碁道場を見つけて、初めてベトナム人と一局打ったのが、良い思い出になりました。女性ガイドが気が利いていました。その時の訪問記を以下に記したいと思います。まあ~観光主体かな。(170428-170504)



←電線搭 ハノイもそうですが、電線がまちなかを這いずり回っており、ここはすっきりとした感じでした。
→ペンタイン市場 庶民の台所というべきところを歩き回りを心掛けています。





←公園 公園には、オレンジや黄色の花が咲き乱れています。
→公衆トイレ 意外とすっきりとしたデザインでした。



✓狭い間口のビル こんな風にビルもひしめき合っています。

↘狭い路地 路地空間も適度な広さが旅行者にとっても居心地が良いですね。
↓囲碁道場 小中学生に教えている道場があったので覗いたら、一局打たせてもらいました。



←統一会堂 大きな建物でした。中庭には、香りのよい白い花などが咲いていました。

→大教会 結婚式前の事前撮影会をやっていました。

✓郵便局 室内は、ゆったりとしていて、自宅あてのはがきを買い込み、切手を貼って出してみました。
(帰国後1週間して届いたような感覚



です) ↓郵便局内部



←組み立て紙細工 紙が素材なのに精巧につくられています。

→メコン川遊覧船 河は濁っていますが、走り出すと川風が快適でした。



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 **象地域設計**

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

WHY?

え？

広告主募集中です!

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728